



陽風園だより

No. 113

令和6年
4月発行
夏秋冬

春

■ もくじ

- P2 令和6年度 陽風園重点事業
- P4 各施設重点事業
- P8 感謝録・ボランティア掲示板

仁・愛・心 時代とともに 地域とともに



令和6年度 陽風園重点事業

～経営基本計画に基づき、福祉を取り巻く社会環境の変化に対応する～

1 令和6年度の新たな重点事業

新 ①能登半島地震による被災者の受入れ

社会福祉施設を経営する社会福祉法人として、被災された方を積極かつ柔軟に受入れ、復興支援の一助となるよう努める。

新 ②(仮称)あけぼのカフェの開設

あけぼの作業所の移転改築に伴い、施設利用者や地域の方々の交流の場として、ショップ機能や簡易なカフェ機能を備えた「(仮称)あけぼのカフェ」を開設する。

新 ③生産性向上委員会の設置

見守り機器等のテクノロジーの導入などにより、介護現場における生産性の向上を促進し、利用者の安全や介護サービスの質の確保、職員の負担軽減を図ることを目的とした委員会を設置する。

新 ④陽風園経営基本計画2023

改訂プロジェクトの設置

令和6年度の介護報酬等の改定に伴い、陽風園経営基本計画2023で計画された重点事業の見直しを図るため、プロジェクトを設置する。

新 ⑤事業運営に必要な設備等の更新

安全で安心な居住環境を提供するため、各施設の老朽化した設備等を計画的に更新する。

- ・第二万陽苑 冷却塔更新工事
エレベーター2号機更新工事
- ・第三万陽苑 冷却塔更新工事
非常放送設備更新工事

新 ⑥あけぼの作業所の旧建物解体工事

あけぼの作業所の移転改築に伴い、旧建物の解体工事を実施し、外構等を整備する。

②特別養護老人ホームの利用率の向上

特養3施設の特徴を明確化するとともに、入所申込みを一元化するなど、受入れ体制を整備し、利用率の向上を図る。

③特別養護老人ホームにおける医療ニーズの高い利用者の積極的な受入れ

インシュリンや透析、在宅酸素など、医療ニーズの高い利用者を積極的に受入れる。

④特別養護老人ホームへの法人内転居の推進

特養以外の入居施設（向陽苑崎浦、向陽苑木曳野、三陽ホーム、ハビリポート若葉・若竹）の利用者で、常時介護が必要となった場合、安心して生活ができるよう、特養3施設への転居を推進する。

⑤サービス付き高齢者向け住宅における介護体制の強化

入居者に必要に応じた介護サービスが提供できるよう、訪問介護員による介護体制を強化する。

⑥訪問介護サービスにおける業務体制の見直し

効率的で利便性のある業務体制とするため、訪問介護員を適正に配置し、継続的にサービスが提供できるよう努める。

⑦日常生活圏域の見直しに伴う

地域包括支援センターの在宅支援体制の整備

金沢市内の地域包括支援センターの担当地区が変更となったことに伴い、在宅への支援体制の強化や職員体制の整備を図る。

⑧ハビリポート若葉における精神疾患への

対応の充実

精神疾患への対応の充実を図るため、対象となる利用者のユニットを再編し、精神保健福祉士を配置するなど、環境の整備を図る。

⑨ハビリポート若葉の夜間における

支援体制の強化

利用者の高齢化や重度化などに対応するため、勤務形態や職員数、環境整備などにより、夜間帯における支援体制の強化を図る。

⑩グループホーム体制の強化

ハビリポート若葉からグループホームへの円滑な地域移行をめざし、グループホームもみじを24時間見守り可能な「介護サービス包括型」とし、移行するための業務体制を整備する。

陽風園経営基本計画2023による 2 重点事業

ア 経営基盤の強化と施設の充実

変 ①本園第二期改築整備事業の推進

復興事業などによる建築資材や人件費等の高騰により、本園第二期改築整備事業の推進が、園の事業運営に支障をきたすことがないよう、令和6年度としていた三陽ホームの実施設設計を後年度に延期する。

⑪ 特定相談支援事業の拡充

障害者の地域への移行を推進するため、相談支援専門員の増員など、相談支援体制の拡充を図る。

⑫ 特別養護老人ホームにおける

柔軟な受入れ体制の構築

万陽苑で入所待ちしている方に、一時的に第二万陽苑や第三万陽苑へ入所してもらうなど、柔軟な受入れ体制を構築する。

⑬ 家族の面会等の適切な実施

外部との交流を促進するため、建物内での対面による適切な面会など、利用者の日常生活の正常化に努める。

⑭ 誰一人とり残さない施設入所の実現

特別な事情のある場合を除き、原則として、入所待機者をすべて受入れる。

⑮ 積極的な情報提供とPR活動の強化

SNS等による情報発信の体制を整備するとともに、病院や居宅介護支援事業所等への営業活動の強化に努める。

イ 危機管理体制の強化

⑯ 災害対策等の強化

利用者の安全・安心を確保するため、災害図上訓練、福祉避難所運営訓練等を実施する。

ウ 地域に根ざした質の高い福祉サービスの提供

⑰ 利用者のリスクゼロに向けた取組の強化

利用者の誤嚥・誤薬・転倒のリスクを回避するため、無線式センサーマットや介護用高機能ベッド等を導入する。

⑱ 日常生活機能の維持

利用者のADL低下防止のため、特養の理学療法士（PT）や作業療法士（OT）が養護老人ホームを巡回する体制とし、日常生活機能の維持を図る。

⑲ 調理業務の統一化

施設ごとに異なる軟菜食やソフト食等の調理手順の基準を確立し、調理業務の統一を図る。

⑳ HACCPに基づく衛生管理体制の充実強化

作業手順等の明確化を図り、食の衛生管理体制の強化を図る。

㉑ みずきこども園での教室の開設

魅力あるこども園をめざし、体育やダンス等の教室を開設するための環境を整備する。

㉒ みずきこども園における食育の推進

食育を推進するため、子どもたちが栽培、収穫、調理を体験できるプログラムを実施する。

㉓ 三陽ホームにおける地域移行の推進

居宅生活訓練事業による就労等を通じて、経済的な自立を促すなど、社会復帰に向けた支援体制を推進する。

㉔ 地域との交流及び連携

研修室等の開放やイベントの開催等を通じて地域との交流・連携を促進する。

エ DX及びSDGsの取組の強化

㉕ 質の高い福祉サービスや業務の効率化に向けたDXの推進

システムの導入やペーパーレス化など、DXを推進し、質の高い福祉サービスの提供や業務の効率化を図る。

㉖ ICTを活用した動画配信等による

利用者家族への情報提供

SNSや動画配信等のICTを活用することにより、利用者家族へスムーズな情報を提供する。

㉗ 処方箋入力の電子化等による診療所機能の強化

処方箋入力システムの導入を検討するとともに、法人全体で医療情報が共有できる仕組みを構築し、診療所機能の強化を図る。

㉘ 介護機器及びロボットの活用促進

見守りシステムや眠りスキャンなどの介護機器の活用を促進し、介護サービスの充実を図る。

㉙ 通所事業所における記録システムの導入

業務の効率化をめざし、あけぼの作業所で記録システムを導入する。

㉚ エネルギー体制の見直し

メンテナンス等のコスト面や将来性などにより、GHPからEHPへの計画的な転換を検討するとともに、エネルギー体制の見直しを図る。

㉛ 社会貢献活動の推進

地球環境の保全に向けて、食品ロスへの対応など、社会貢献活動を積極的に推進する。

オ 仁愛の心と高い志を持つ人材の育成

㉜ 職員研修等の充実

精神障害のある利用者の増加や8050問題を抱える家族の支援等に対応するため、障害特性について学ぶための研修や虐待防止研修を充実する。

㉝ 事業運営に必要な資格取得の支援

ユニットリーダーやサービス管理責任者、社会福祉士、介護福祉士など、事業運営に必要な資格の取得を支援する。

【アイコンについて】

変 変更して実施

新 今年度から新たに実施

継 前年度から継続して実施

養護老人ホーム 向陽苑 崎浦

「健康でいきいき暮らそう がんばろう崎浦」

崎 浦の名前を付け健康長寿をテーマにする「がんばろう 崎浦健康いきいきプロジェクト」も今年で5年目になります。今年は認知症予防や健康増進・体力アップを目的とした健康体操や脳トレーニング等に加え、機能訓練指導員の指導による個別の生活リハビリも充実させていきます。また、利用者様の生活行動範囲の拡大を目的とした苑内外でのレクリエーション活動（料理教室、買い物、ドライブ等）についても、利用者様と一緒に季節の草花を植えた花壇を整備するなど、活動の充実を図り、皆様が心身とも健康で、いきいきした生活が送れるよう努めてまいります。



養護老人ホーム 向陽苑 木曳野

「明るく健康で意欲的な生活ができるように、 レクリエーションやリハビリの充実を図る」

□ ロナ禍で一変した生活の復元・回復に努め、これまでの習慣ややり方を見直し、私たちの“Resilience”(レジリエンス「弾力」「回復力」「立ち直り」)の力を発揮し、活気ある施設をめざします。

日常生活機能の維持のため、体力や気力、認知機能など、からだやこころの機能の低下によって要介護に陥る「フレイル」の予防強化を図るため、隔週で運動に特化した「軽体操」、レクリエーションに特化した「ミニレク」を開催し、また、腸活の大切さを伝えると共に食べる力、出す力につながるよう食事前に誤嚥を防ぐためのパタカラ体操を取り入れていきます。



特別養護老人ホーム **万陽苑**

「家族の面会等の適正な実施」

□ ロナ禍以前は、9:00～20:00を面会時間としておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行開始後、面会制限を余儀なくされ、一時は面会を中止とした時期もありました。

直接の対面を避け、窓越しやオンラインでの面会から再開し、感染症法上、2類から5類に移行されて以降は、ロビーでの面会を開始しました。ようやく直接対面していただくことができるようになりましたが、限られた時間と場所での対応で、1ヶ月に1回程度しか面会予約がとれない状況が続きました。

昨年10月からは、各居室での面会とさせていただき、希望日に予約が取れない状況は解消されつつあります。ただ、午前は9:30～11:00、午後は14:00～16:30（土日祝は完全予約制）の20分間程度の面会時間で、まだまだご不便をお掛けしております。

今後も感染対策を図り、状況をみながら、少しずつ元の面会体制に戻せるように検討を続けていきます。



フロア内リビングでの面会の様子



居室での面会の様子

特別養護老人ホーム **第二万陽苑**

「事業運営に必要な設備等の更新」

第 二万陽苑は昭和60年（1985年）に開設し、来年2025年には開設40周年を迎えます。しかしながら、時の流れと共に設備等が老朽化しているのが現状です。今後も利用者の皆様に安全で安心な居住環境を提供するため、計画的に設備等の更新を進めています。

2機のエレベーターを前年度・今年度で1機ずつ更新。冷暖房設備においては、今年度は冷却塔、来年度は冷温水機の更新工事を計画しています。今後も必要に応じ計画的に設備の更新を行い、安全・安心・快適な環境を提供していきたいと思っております。



特別養護老人ホーム 第三万陽苑

「介護機器及びロボットの活用促進」

利用者の皆様の有する能力を活かした自立支援に努め、介護が必要な利用者様については介護機器や移乗ロボット、スライディングボード等を使用していきます。

また、苑内における通信機能にインカムを導入し利用者様への迅速な対応や事故の防止、職員間の情報共有に努め、リスクゼロに向けた取り組みを行ってまいります。

他には、施設設備の補修・維持に努めるほか冷却塔や総合防災盤の更新を行い、快適な生活を確保できるよう取り組んでいきます。



陽風園地域福祉プラザ

「日常生活圏域見直しに伴う地域包括支援センターの在宅支援体制の整備について」

陽風園地域福祉プラザには、地域ケアにおける総合相談機関として、地域福祉総合相談室、居宅支援事業所、地域包括支援センター、通所介護事業所、訪問介護事業所があります。

令和6年4月1日より、金沢市地域包括支援センターの担当圏域の変更がありました。今まで地域包括支援センターみつくちしんまちの担当圏域であった、崎浦、内川、菊川、十一屋地区のうち、菊川地区は包括支援センターとびうめ、十一屋地区は包括支援センターながさかに変更となりました。それに伴い、現在、担当させ

ていただいている利用者様で変更地区に該当される方は順次引継ぎを行っております。

今後も、あらゆる福祉ニーズに対応する地域福祉の相談窓口として地域の皆様の支援を行っていきたいと思います。



救護施設 三陽ホーム

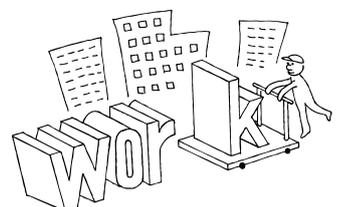
「自立をめざしてできることから」

救護施設は通過施設の役割の一つとして生活保護受給者が、生活の立て直しを図り、地域生活をめざす施設です。

三陽ホームでは地域移行に向けて様々な取り組みを行っています。自立した生活のためには、安定した収入が必要になり、近年では物価高騰により年金や生活保護費だけでは生活が難しい方もいます。そのため、収入を増やすには就労する選択も必要になります。三陽ホームでは、仕事をする上での意欲向上や自信に繋がる目的も含め、日中は作業訓練を行っています。作業内容としては芝寿し様の弁当箱等を折る作業になりますが、工程を分けて利用者様それぞれの適正に合わせた作業を

行っています。以前は作業量に関わらず工賃は定額支給でしたが、昨年度は利用者の方々の努力もあり、収益が大きく増加したことから、工賃支給額の見直しを行い、昨年の9月から作業収益の増減に応じて工賃を支給する方法に変更しました。

利用者の方々は作業に対してモチベーションが向上し、個々の役割に対して責任感も持つようになりました。作業訓練を含めて、できることを少しずつ増やしながら自立できるよう努めていきます。



障害者支援施設 **ハビリポート若葉・若竹**

ハビリポート若葉・若竹では、昨年度整備をすすめていた静養室を健康観察スペースとしてだけでなく、特性がある方が気持ちを落ち着かせたり、パニックを未然に防ぐカームダウン・クールダウンのためにも活用してまいります。

また、今年度は、利用者の皆様の高齢化・重度化によるADLの低下に対応するため、ハビリポート若葉・若竹において機能訓練指導員の巡回を予定しております。手すりの位置などの環境整備やポジショニング、生活リハビリなどについて専門的な助言を受けることで、日常生活機能の維持・向上が図られるとともに、安全安心な生活を脅かす要因を少しでも取り除く効果が期待できると考えます。



就労継続支援B型 **あけぼの作業所**

「新しい施設」

本園第二期改築整備事業の推進として、昨年度の秋からあけぼの作業所改築工事が始まりましたが、間もなく工事完了の予定です。

新しい施設では、エレベーターを導入し、近年のあけぼの作業所で課題となっていた利用者様の高齢化へ対応していきます。

また、以前から、あけぼの作業所で製作された商品は施設で直接購入できるのかというお問い合わせの声が多かったため、新しい施設では、自主生産品をお買い求め

いただくことができる「(仮称)あけぼのカフェ」を開設する予定です。

この「(仮称)あけぼのカフェ」は、ショップ機能はもちろんの事、

地域の皆様の交流の場としての機能も併せ持っておりますので、お気軽にお立ち寄り頂けるようお待ちしております。

新しいあけぼの作業所になりましたも、これまで通りよろしくお願い申し上げます。



認定こども園 **みずきこども園**

「体育教室の開設」

お仕事と子育てを両立している保護者にとって子どもの習い事については時間が取れず、諦めてしまう声も聞かれます。そこで、今年度から専門的知識を持つ講師の下、体育教室を始める予定です。

「食育の推進」

食育の推進は夏野菜を栽培し生長を観察したり、加賀野菜で有名な五郎島金時を現地までバスで行き、収穫したりすることを楽しみます。土との触れ合いを通して採れた野菜を使って、年齢や季節に応じたクッキングを行い、食べる意欲もどんどん高めていこうと思います。

園での給食で気になる事のひとつに、食物アレルギーへの配慮が挙げられます。除去食や代替食などにより、食物アレルギー対策にもできる限り万全を尽くしています。また年長児は給食スタッフと一緒に毎朝、お手伝いとしてその日の食材の下準備をしていますヨ！



感謝録 1月～3月

volunteer message board
ボランティア
掲示板



井奈 悦子様 箏演奏



金城相撲甚句会



南小立野小学校へ
手作り雑巾寄付活動



◆ ボランティア

- 井奈 悦子
- ほたるの会 代表 藤原 光恵
- ひがしMサロン 代表 林田 孝一
- アリス学園被災者ボランティア 延べ40名
- 全国社会福祉協議会 災害派遣応援職員 計15名
- 金城相撲甚句会 轟 健正

◆ 寄付物品の部

- 中村 雄三
- 三友商事(株) 大門 正義 ● 石川県製麺工業組合
- その他匿名3名

◆ 寄付金の部

- 西田 清光
- 崎浦ボランティアの会
- 金沢市崎浦地区町会連合会 会長 上森 弘
- その他匿名8名

ご厚意ありがとうございました。

◎ 施設開放 〈本園研修室等〉

- 三口新町東町会 三口新町東町会婦人部
- 三口新町東町みのり会 三口新町南町会
- 花里町会

◎ 実習・体験

- 地域看護活動基礎実習 (金城大学) (プラザ14名)
- ソーシャルワーク実習Ⅱ (金城大学)
- (三陽2名、ハビリ2名)
- 介護実習Ⅱ (金城大学) (三陽1名)

◎ 社会貢献活動

- 南小立野小学校へ手作り雑巾寄付活動 (崎浦)
- 内川スクールサポート隊 (第三・ハビリ)
- 内川小中学校リサイクル活動 (第二・第三)

